

- 問1 東京都中央卸売市場における農産物の流通において、季節ごとに主産地が変化する様子を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。
なお、1月の取扱数量1位は静岡県、3月と11月は茨城県、8月は長野県であるという統計に基づき考えてください。（2022年 長野県公立入試 類似）
1. 冬の間は、日照時間が短く積雪の多い日本海側の地域が、主要な供給地として出荷を伸ばす。
 2. 夏の間は、冷涼な気候を活かして野菜を生産する長野県などの高冷地が、主要な供給地となる。
 3. 1年を通じて、茨城県などの東京都に隣接する県が、すべての月で取扱数量の1位を維持している。
 4. 春と秋は、消費地から遠く離れた九州地方などの遠隔地からの出荷が、市場の大部分を占める。
- 問2 静岡県の牧之原や、鹿児島県に広がるシラス台地のような地形において、その土地の「水はけの良さ」という特性を活かして盛んに行われている農業はどれですか。（2016年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 茶の栽培
 2. 稲作（水稲栽培）
 3. 野菜の促成栽培
 4. 果樹（ミカン）の栽培
- 問3 北海道と茨城県の農業を比較したとき、茨城県の耕地面積が約17万ヘクタールで農家数が約5.7万戸であるのに対し、北海道は耕地面積が約114万ヘクタールで農家数が約3.8万戸となっています。このような数値から読み取れる北海道の農業の特徴と、その生産体制について正しく説明しているものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）
1. 農家数が茨城県より少ないため、労働力不足を補うために、首都圏向けの近郊農業を主体とした経営に特化している。
 2. 農家1戸あたりの耕地面積が茨城県の約5倍となっており、限られた面積から高い収益を得るための集約的な農業が行われている。
 3. 農家1戸あたりの耕地面積が茨城県の約10倍と極めて大きく、大型機械を効率よく活用した大規模農業が行われている。
 4. 広大な土地を多くの農家で共有しており、1戸あたりの面積は茨城県より小さいが、生産量全体では日本最大となっている。
- 問4 合計特殊出生率の低下と平均寿命の延びが同時に進行することで、65歳以上の人口割合が増加し、将来の労働力を担う生産年齢人口が減少していく現象を何というか。最も適切な語句を選びなさい。（2019年 北海道公立入試 類似）
1. 過密化
 2. ドーナツ化現象
 3. 人口爆発
 4. 少子高齢化
- 問5 家計の消費支出において、1960年当時と比べて2010年の「消費支出に占める食料費の割合」が低くなっている理由として、当時の社会背景をふまえて説明したものととして適切なものはどれですか。（2017年 徳島県公立入試 類似）
1. 1960年代には食料自給率が極めて低かったが、2010年に向けて自給率が向上したことで安価な国産野菜が普及したため。
 2. 少子高齢化の影響で1世帯あたりの人数が減少し、家計における食料の消費量そのものが1960年当時の半分以下になったため。
 3. 経済成長によって国民全体の所得水準が上がり、支出の余裕が生まれ食料以外の教養・娯楽などへの支出割合が増えたため。
 4. 農産物の輸入自由化が進んだことで食料品の価格が劇的に安くなり、家計における食料費の支出額がほとんどなくなったため。
- 問6 1960年代から70年代の高度経済成長期において、愛知県などの大都市圏では人口の転入が転出を上回る「社会増」が顕著であったのに対し、多くの地方の県では人口が流出する「社会減」が見られました。この人口移動が起きた背景として、最も適切なものはどれか。（2022年 山口県公立入試 類似）
1. 都心部の地価が高騰したため、居住地を求めて都市部から周辺の県へ人口が拡散したから。
 2. 地方で農業の機械化が遅れ、多くの人手が必要になったため都市部から労働者が戻ったから。
 3. 都市部で重化学工業やサービス業が急速に発展し、大量の労働力が必要とされたから。
 4. 地方の豊かな自然環境を求めて、都市部の高齢者が一斉に農村部へ移住したから。
- 問7 ある地方の産業統計を見ると、製造品出荷額が約82兆円という極めて高い数値を示しており、全国で最大となっています。これは、この地方に日本最大の工業地帯である中京工業地帯が位置していることが大きく影響しています。この地方の名称を答えなさい。（2017年 山形県公立入試 類似）
1. 中部地方
 2. 近畿地方
 3. 九州地方
 4. 関東地方
- 問8 日本の海岸沿いには、海面を土砂などで埋め立てて造成された土地（埋立地）が多く見られます。このような場所に、製鉄所や火力発電所、あるいは大規模な空港が建設される理由を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2017年 秋田県公立入試 類似）
1. 農地として利用するには不向きなため、段々畑や棚田を造成して食料自給率を高めることが目的であるから。
 2. 原材料の輸入や製品の輸出に便利のため、大型船が接岸しやすい場所を確保する必要があるから。
 3. 騒音問題を防ぐため、山間部の切り土を利用して住宅地と工業地帯を分ける必要があったから。
 4. 山間部におけるダム建設が困難なため、安定した水力を得やすい場所を求めた結果であるから。
- 問9 茶の栽培に適した自然条件について、土地の性質とその利点の組み合わせとして正しいものを次の中から選びなさい。（2024年 富山県公立入試 類似）
1. 緩やかな傾斜地：水はけが良く、根が腐るのを防ぐとともに霜の被害を抑えられる
 2. 急峻な山の北側：日光を遮ることで、光合成を抑制し葉を柔らかく保つことができる
 3. 低湿地：地下水が豊富であり、茶の栽培に必要な大量の水を常に根から吸収できる
 4. 盆地の中心部：湿気が溜まりやすく、乾燥を好まない茶の木の成長を助ける
- 問10 宮崎県などの暖かい地域で、多額の費用をかけてビニールハウスを設置し、野菜の出荷時期を本来の季節より早める「促成栽培」を行う最大の目的として、最も適切なものはどれですか。（2015年 長崎県公立入試 類似）
1. 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため
 2. 大都市のすぐ近くで栽培することで、輸送にかかる時間とコストを抑えるため
 3. 農薬や化学肥料の使用を抑え、農産物のブランド価値を高めるため
 4. 高冷地の涼しい気候を利用して、他の産地より出荷時期を遅らせるため
- 問11 農業産出額の構成において、石川県は「米」の割合が極めて高く、岩手県は「米」に加えて「畜産」の割合が大きくなっています。岩手県で畜産が盛んに行われている地理的背景として、最も適切な説明を選択してください。（2020年 埼玉県公立入試 類似）
1. 北上高地などの広大な土地や丘陵地を活用し、肉用牛や乳牛、鶏などの飼育が大規模に行われているため
 2. 伝統的に工芸作物の栽培が盛だったが、化学繊維の普及により、その広大な跡地を牧場に転用したため
 3. 海外への輸出を目的として、ブランド牛の生産に特化し、米よりも高い収益を上げる構造へ転換したため
 4. 冬の積雪が厳しく耕作が困難なため、年間を通じて室内で管理できる家畜の飼育に特化したため
- 問12 日本の多くの地方自治体では、地域の再生を目指す取り組みの中で、若者が働きたいと考えるような業種の企業を積極的に誘致する施策を行っています。このような施策を行う主な目的として最も適切な説明はどれですか。（2016年 山形県公立入試 類似）
1. 県外からの観光客を一時的に増やすために、宿泊施設やレジャー施設の短期的な利用を促進すること。
 2. 都市部からの企業移転を制限することで、地域の伝統的な産業だけを保護し、若者の就農を強制すること。
 3. 地域内での雇用を創出し、若者の県内などへの定着を図ることで、地域の活性化につなげること。
 4. 増加する高齢層の生活を支えるために、介護サービスに特化した企業のみを誘致して福祉を充実させること。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 夏の間は、冷涼な気候を活かして野菜を生産する長野県などの高冷地が、主要な供給地となる。	日本の農業では、気候条件の違いを利用して、異なる地域が時期をずらして同じ品目を出荷する「産地リレー」が行われています。東京都に近い茨城県などは春や秋に多く出荷し、夏には冷涼な長野県などの高冷地、冬には温暖な静岡県や九州地方が主産地となります。これにより、都市への安定的な食料供給が可能になっています。
問2	答え 1 茶の栽培	静岡県の牧之原台地や鹿児島県のシラス台地は、周囲の平地よりも一段高くなっており、雨水が溜まりにくい「水はけが良い」という特徴を持っています。茶は生育に一定の水分を必要としますが、根が腐らないよう水はけの良い土地が適しているため、これらの台地では明治時代以降に大規模な茶園が拓かれ、日本有数の産地となりました。一方、稲作には大量の水を溜める必要があるため、水はけの良すぎる台地は本来不向きとされています。
問3	答え 3 農家 1 戸あたりの耕地面積が茨城県の約10倍と極めて大きく、大型機械を効率よく活用した大規模農業が行われている。	提示された数値から1戸あたりの耕地面積を算出すると、茨城県が約3ヘクタールであるのに対し、北海道は約30ヘクタールとなり、約10倍の差があることがわかります。北海道ではこの広大な土地を背景に、トラクターなどの大型機械を用いた大規模な農業が展開されており、労働生産性を高めているのが大きな特徴です。約5倍という数値は誤りであり、また北海道は近郊農業ではなく、広大な土地を活かした「大規模農業」が記述のポイントとなります。
問4	答え 4 少子高齢化	出生率が低下して子どもの数が減る「少子化」と、寿命が延びて高齢者が増える「高齢化」が同時に進行しているため「少子高齢化」と呼ばれます。選択肢にある「人口爆発」は、発展途上国などで見られる急激な人口増加を指す言葉であり、現在の日本の状況とは逆の現象です。
問5	答え 3 経済成長によって国民全体の所得水準が上がり、支出の余裕が生まれて食料以外の教養・娯楽などへの支出割合が増えたため。	家計の消費支出に占める食料費の割合は、一般に生活水準が高くなるほど低くなる傾向があります。1960年当時は、支出の多くを食料に割かなければならない状況でしたが、その後の経済発展によって家計に余裕が生まれた結果、レジャーやサービス、通信費など、食料以外の多様な分野に支出が分散されるようになりました。この統計的な傾向は、地域の生活の変化を捉える重要な指標となります。
問6	答え 3 都市部で重化学工業やサービス業が急速に発展し、大量の労働力が必要とされたから。	高度経済成長期、日本は重化学工業を中心に経済が飛躍的に発展しました。これに伴い、工場や事業所が集中する大都市圏では人手が不足し、職を求める多くの若者などが地方から都市部へ移住しました。この現象は、都市部における過密や、地方における過疎という新たな社会問題を生むきっかけにもなりました。
問7	答え 1 中部地方	愛知県を中心に広がる中京工業地帯は、自動車工業をはじめとした製造業が極めて盛んな地域です。その影響により、中部地方全体の製造品出荷額は他の地方を圧倒して全国1位となっています。地方ごとの統計を判別する際、この圧倒的な工業生産額は、中部地方を特定する最も重要な指標となります。
問8	答え 2 原材料の輸入や製品の輸出に便利のため、大型船が接岸しやすい場所を確保する必要があるから。	日本の工業は、加工貿易を中心に発展してきたため、海外から鉄鉱石や石炭などの原料を輸入し、製品を輸出するのに便利な海沿いの土地が必要でした。埋立地は大型船が接岸しやすく、工場のための広大な敷地を確保できるため、製鉄所や火力発電所、さらには騒音対策も考慮した大規模な空港などの建設に適しています。棚田は山間部の斜面に作られるものであり、ダムは河川の上流に建設される施設であるため、埋立地の利用形態とは異なります。
問9	答え 1 緩やかな傾斜地：水はけが良く、根が腐るのを防ぐとともに霜の被害を抑えられる	茶の栽培には「水はけ（排水性）」が非常に重要です。緩やかな傾斜地や台地は、雨水が地表や地中をスムーズに流れるため、茶の栽培に適しています。一方で、盆地の底や低地は冷たい空気が溜まりやすく（冷気湖）、春先に新芽が霜に当たって枯れてしまうリスクがあるため、避けるのが一般的です。静岡県の牧之原台地などは、こうした水はけの良い地形を活かした代表的な茶産地です。
問10	答え 1 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため	野菜の市場価格は、供給が不足する時期に高くなる傾向があります。多くの産地が収穫できない冬から春にかけて、促成栽培によって前倒しで出荷することで、競争を避けつつ有利な価格で販売することが可能になります。これにより、施設維持費などのコストを上回る収益を目指しています。
問11	答え 1 北上高地などの広大な土地や丘陵地を活用し、肉用牛や乳牛、鶏などの飼育が大規模に行われているため	岩手県は本州で最大の面積を持ち、北上高地などの広い平地や丘陵地を有しています。この広大な土地を活かして、肉用牛や乳牛、ブロイラー（鶏）などの畜産業が発展しました。その結果、農業産出額において米と並び畜産が大きな柱となっています。
問12	答え 3 地域内での雇用を創出し、若者の県内などへの定着を図ることで、地域の活性化につなげること。	地方における人口減少や過疎化の課題を解決するためには、若者がその土地に留まって生活できる経済的基盤が必要です。若者の二一スに合った業種の企業を誘致し、地域内で安定した雇用を確保することは、進学や就職を機に都市部へ流出してしまうのを防ぎ、将来にわたって地域社会を維持・再生させるための重要な手段となります。